

家庭・地域とつながる防災教育

1 災害への備えが必要となっています。

東日本大地震と同じ規模の南海トラフ大地震が、これから30年以内に60～70%の確率で起こるといわれており、岡山県でも大きな被害が出るのではないかと心配しています。

そこで、今年度、学校では、大地震が発生した時、子どもたちの命を守り、安全に避難できるよう、家庭や地域の方々と力を合わせて防災教育に取り組んでいます。

2 防災教育では、子ども自身が身を守る力を育てていきます。

学校では、火事や地震を想定した避難訓練を年4回実施しています。訓練では、「おはしも（おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない）」をポイントに、子どもたちが災害から身を守る方法や、安全な避難方法を指導しています。

学校では、気象庁が地震発生時に流している「緊急地震速報音」を校内放送で流せるシステムを新たにに取り付け、9月9日、初めてこのシステムを使って避難訓練を行いました。ほとんどの子どもたちは、緊急地震速報音を聞き、素早く頭を守ることができていました。

また、この避難訓練に引き続いて行った「保護者・施設への引き渡し訓練」は、今年で2回目となりましたが、保護者や施設関係者の皆様の協力により、子どもたちは落ち着いて、下校することができました。

今年度は、学校防災アドバイザー：共立女子大学看護学部教授 加藤令子先生から、「子ども自身の力を高める防災教育」について様々な助言を受けています。それらを参考に、繰り返し訓練を行いながら、子ども自身が身を守る力を育てていきたいと思えます。

3 地域の方々と連携した防災対策を進めています。

学校周辺は、大地震が発生すると、液状化（水を含んだ砂質地盤が、地震で液体のように噴き出す現象）により、建物が傾いたり道路が通れなくなったりする可能性があり、地域の方々と助けあうことが、なにより大切になります。今年度の取り組みでは、御南・西学区町内会や、御南西公民館、ひらた旭川荘、御南中学校など、地域の方々の協力をいただいております。防災をテーマに、地域との絆を深めたいと思っています。

10月、11月には、防災教育に関連した行事を計画しています。災害への備えのために、ぜひともご参加ください。（いずれも、当日受付可能です。）



避難訓練の様子



引き渡し訓練の様子

(1) 地域との合同防災研修会

・日時 平成27年10月9日（金）10：00～12：00

・会場 岡山市立御南西公民館

・内容 ①講演 「南海トラフ巨大地震に備えるために
～御南学区・西学区における地震の被害と減災～」

講師：岡山理科大学総合情報学部

生物地球システム学科

特担教授 西村 敬一 先生

②講義 「被災地の現状から学ぶこと」

講師：岡山市御南学区体育協会会長 前田 晁 先生

（日本赤十字社岡山県支部 機動奉仕団委員長、安全奉仕団）

(2) 地域との合同避難所体験

・日時 平成27年11月7日
10：00～14：00（土）

・会場 岡山県立岡山西支援学校

・内容 次の体験を行います。
（一部抜粋）

NTT災害用伝言ダイヤル

非常食の試食

（アルファ米、乾パン等）

救急法（AED、心肺蘇生法）

防災グッズの紹介

「人とかわる力」の質の向上を求めて(今年度本校の研究より)

自立と社会参加をめざす特別支援教育。その目標は、障害の程度にかかわらずすべての子どものものであるべき。私たちが取り組んできた「キャリア教育」は、卒業後を見据え、質の高い生活を送ることのできる子どもたちを育てることをめざすものである。

これは、今年度の研修会で元愛媛大学教授の上岡一世先生が教えてくださったことの一部です。そして、質の高い生活とは、他者から「認められ、必要とされ、役に立つ」ことのできる生活であり、そうありたいと努力する子どもを育てることが必要と学びました。

どの子ども、いずれは家族以外の他者とかわりながら生きていくことになるであろう将来、与えられた環境の中にただ受け身的に存在するだけではなく、自らの願いをもち、それを叶えるために意思を伝えたり、周囲の人とさまざまな気持ちを共感したりすることのできる力をもってほしい。自分の力を発揮できる場をもち、存在価値を実感し、前向きな気持ちで生活することができるようになってほしい。私たちはそのような願いをもち、それぞれの部で、その時期ごとの重点をふまえて授業づくりに取り組んできました。



大好きな活動でニッコリ!

訪問部では、「～したい、～なりたい」という本人の願い(かかわりの内面)を育てることを目標に。表出や動作が苦手でも何でも受け身だった児童が、信頼できる先生と一緒に主体的な活動経験を積む中で、好きな活動で喜び、もっとしたいと声を出せるようになりました。そのような姿に、周囲からの働きかけも一層豊かになってきたそうです。

小学部では、身近な他者とかわる力を伸ばすことを目標に。祭りの準備を通して、普段は直接かわることの少ない子どもたちが、友達のことを考え、作業しやすいように補助したり、自分から「しょうか?」と尋ねたりする姿も見られました。下学年を招待しての「わくわく夏祭り」では、上級生として役割を果たしたという、誇らしげな姿も見られました。



みんなが楽しめるお祭りでした!

中学部では、集団の中で人とかわる力を伸ばすことを目標に。インタビューの仕方について学習し、その技を使って校外で質問することにチャレンジ。それまでは人とかわる場面で自信がもてなかった生徒たちも、自らの課題に向き合い、努力し、成功する体験を積むとともに、実社会の中で認められ、また質問してみたい、という前向きな気持ちをもつことができました。



自信をもって、JRの職員さんに質問できました。



チームの一人一人がなく
てはならない存在です

高等部では、自らの夢の実現に向け他者(社会)とかわる力を伸ばすことを目標に。卒業後の職業生活に直結する作業学習の中で、自分に任された役割の意味を知り、製品の完成に貢献するとともに、目標をもって努力した結果、自らが成長したことを実感したり、仲間や社会に認められたりすることの喜びを味わいました。作業後、「頑張った」と伝える顔が、頼もしかったです。

全学部を通し、単に「できる」ことではなく、「内面を伴ってできる」ことを大切にしてきました。「～しよう」という気持ちを引き出すには、周囲のかかわりも重要です。ご家庭や施設においても、本人が「存在価値を実感できる」かわりをよろしくお願いします。

❖ 事務室からのお知らせ ❖

さて、就学奨励費2-四半期支給のお知らせをします。
申告書の提出期限は、10月2日(金)厳守でお願いします。
支給日は10月末を予定しております。

